

●技術情報

日本海事協会 情報センター

— 情報サービスの推進拠点 —

財団法人 日本海事協会

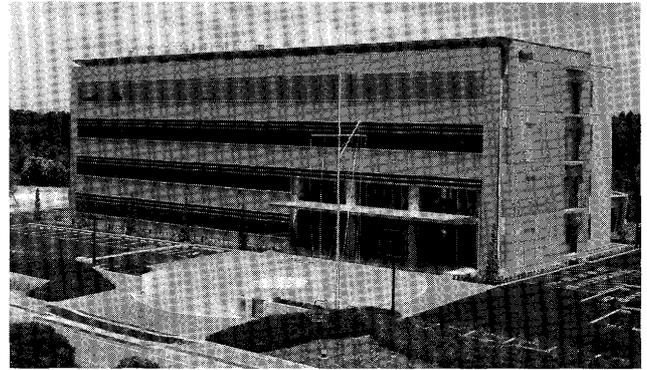
情報の共有化を目指して

サプライチェーン・マネジメントという用語を最近よく耳にする。海運造船業界の共通利益である海上における安全と海洋環境保全について考えると、「造船所・機器材料製造会社、船主・船舶管理会社、保険会社、旗国政府、船級協会、研究機関などサービスの需給関係で連なる組織の間で情報を交換し共有することによって、より早く、効率的に、確実にリスクに対応するしくみの全体最適化をめざす」と言える。このような高度情報化による需要に対応する拠点として設立されたのが、情報処理部門を集約した情報センターである。現在、情報センターにはNK本部組織の情報技術部、船級部、安全管理システム部、テクニカルサービス部、情報サービス部と研修所の6つの部門があり多岐に渡る業務を行っているが、ここでは「情報の共有化」をキーワードとした業務を中心に紹介する。

情報サービス機能の充実

情報センターにはNKの情報処理と通信の中核設備が置かれ、情報技術部がシステムの構築と保守を行っている。本部3ヶ所、国内22ヶ所、海外61ヶ所のサービス拠点を結ぶイントラネットシステムは「ClassNK Global Ware」と呼ばれ、情報伝達機能の強化と、大規模な情報データベースの共有化を可能としている。国際的共有のために全ての情報は英語と日本語のバイリンガルで作成されている。規則、検査記録、技術通牒、損傷解析データ、船体・機関の知識データベースなど必要な情報を24時間いつでも利用できる。またイントラネットを利用して検査データの入力や損傷報告等を行うことで情報更新の迅速化を実現している。

顧客への情報サービスはインターネットと従来の印刷物それぞれのメリットを活かして行われているが、ホームページ運営・各種通知発送・資料送付・出版等々、メディアに関わらず、顧客サービス業務全般が情報サービス部に集約されている。船級船の登録簿、船級の保留・解除、技術規則、テクニカルインフォメーション、承認品リスト、サービスネットワークの案内、業務トピックス等の一般情報をホームページ上で提供する一方、船主や船舶管理会社にユーザーIDとパスワードを無料で発行して自社保有もしくは管理船についての最新情報をいつでも、どこでも見ることのできるサービスを提供している。利用者はホームページ上のリンクからNK-SHIPSとNK-SMARTという二つ



水平基調の簡潔なデザイン。機能性を重視した情報センター建物

のシステムにアクセスできる。NK-SHIPSは、船級検査と条約証書に関する検査について検査項目、履歴、次回検査日又は証書有効期限等の保船・運航管理に必要な詳細情報に加え、建造時から現在に至るまでの全ての検査記録書情報をオンラインで提供している。

また、NK-SMARTは安全管理システムについて同様の情報を提供している。

情報処理と保管の集約化

世界各地で行われた検査の結果は検査完了後直ちにイントラネットを通じて情報センターのコンピュータに入力されると同時に、検査記録書（紙）として情報センターに送られ、船級部と安全管理システム部によって処理される。受付処理された検査記録書（紙）は直ちに画像データに変換されNK-Archivesと呼ばれる電子書庫に格納され、共有データとして活用されるとともに、原文書として書庫にファイリングされる検査記録書（紙）のバックアップデータとして使用される。入力データと記録書の内容は精密な審査後、確定情報としてデータベースに格納され、NK-SHIPS、NK-SMARTによって船主・船舶管理者に提供される。さらに、検査記録書から抽出された損傷修理や規則への不適合事項に関する情報は調査・解析されフィードバックデータとして活用される。

このように「情報の収集—処理—保管—活用—提供」という一連業務を情報センターに集約することにより管理品質と効率を高めている。

情報サービス機能の「もしも、」に備えて

情報センターには情報ネットワークとコンピュータ記憶

装置の中核設備が置かれているだけでなく、書架総延長10kmを越える書庫に膨大な量の図面、技術資料、記録書が保管されている。これらの創立以来100年を越える歳月に蓄積された海運造船に関する総合的資料は業界全体にとっての貴重な技術的、文化的な共有情報資産でもある。情報センターは、大地震等の自然災害に遭遇しても、サービス機能の中断や情報資産の損失が起きないように、免震基礎構造、基幹設備の二重化、無瞬断給電装置、自家発電設備、生活環境維持設備などの高度な防災対策が施されている。



www.classnk.or.jp

日本海事協会

海上における人命と財産の安全および海洋環境の保護を業務目的とする国際船級協会。1899年創立。海運造船業界ではClassNKまたは単にNKという略称で知られる世界有数の船級協会。2002年5月末でNK船級登録船は、隻数にして6424隻、総トン数で1億1千6百万トンを超える。全世界規模のネットワークにより、船舶の検査、品質システムの審査、テクニカルサービス、研究開発などさまざまな分野でサービスを提供している。職員約1000名。

情報センター

2001年7月に竣工。

[住所] 千葉県千葉市緑区大野台1-8-5

[電話] 043-294-5451 (受付: 情報サービス部)

[FAX] 043-294-7204

[施設概要] 地上4階建て、鉄筋コンクリート造、
建築面積1,839.47㎡、延べ床面積5,547.98㎡

[職員数] 約110名

●ニュース

テクノスーパーライナーの実用化のための新会社の設立 (ナイトクルーズ便が可能)

国土交通省では、テクノスーパーライナー(TSL)をはじめとする高度船舶技術を活用した新しい海上輸送システムの開発・事業化に取り組んできたところ、このたび、TSLの保有・管理等を行う新会社が、海運、造船、物流、商社及び日本政策投資銀行から総額32.8億円の出資を得て、平成14年6月18日に設立された。

新会社の保有するTSL第一船は、東京-小笠原航路に投入(平成16年度)される予定で、これにより、本土から小笠原へのアクセスが大幅に改善され(片道26時間→約16時間)、島民の利便性の向上や小笠原の活性化に大いに寄与することが期待される。

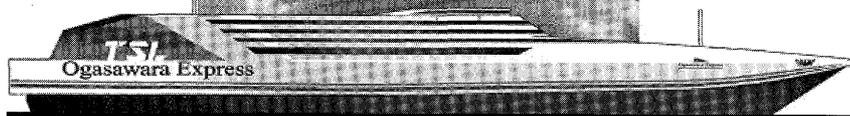
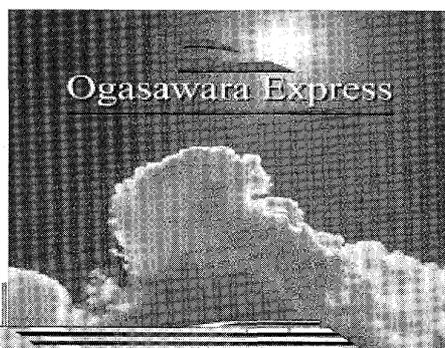
* 新会社の概要

資本金 3,280百万円

設立年月日 平成14年6月18日

事業内容

- * 海上輸送システムの開拓事業(市場調査、事業化環境整備等)
- * トータルサポートシステム(TSS: TSLの運航や保守管理を支援する総合的な技術支援システム)の開発及び提供
- * 新形式船舶の保有・貸与 他



要目	小笠原TSL	おがさわら丸(現就航船)
全長	140メートル	131メートル
全幅	30メートル	17メートル
総トン数	1万4,500トン	6,679トン
速力	時速約70キロ	時速約40キロ
材質	アルミ軽合金	鋼
推進機関	ガスタービン(ウォータージェット)	ディーゼル(プロペラ)
旅客数	725名	1,031名

国土交通省海事局造船課